

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉総合産業高等学校

重点項目	地域を支える専門人材育成重点校	提出日	令和 5年 4月 21日
------	-----------------	-----	--------------

1 学校目標	
<p>将来職業人として地域で活躍し、地域に貢献できる人材を育成することを目標として、専門分野に関する学習や資格取得、部活動との両立、進路の実現等に日々努力する人材の育成を図る。また、地域との交流の中で、コミュニケーション能力や豊かな人間性の育成に努める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。 ・専門教育を推進することで、技能を高め、地元企業に求められる人材を育成する。 ・各分野に優れた知識や技能をもつ社会人講師・大学教員を活用することにより、生徒の学習意欲の向上を図り、職業観、勤労観を育成する。 ・専門的な知識、技能、職見を有する地域の社会人を講師として招聘し、ショップ経営のノウハウを身に付けさせ、ビジネスに必要な業務を効率的に行う能力を育成する。 ・インターンシップやビジネス実習をとおして職業や将来設計について考えさせ、主体的な職業選択能力や職業意識を育成するとともに、挨拶・言葉遣い・礼儀・マナーなどを学びコミュニケーション能力を高める。また、地元企業を見学し、進路選択における判断材料とする。 ・地域と連携した課題研究を実施し、地域との関わり合いを持ちながら、社会の変化に対応できる企画能力や実践能力を育成する。 ・地域の社会人講師を招聘し、全体に対する講話だけでなく、個々の資格取得における指導に携わってもらう。単に技術指導だけでなく、生徒に「学び」への意欲を喚起させ、教職員が日常の授業で資格取得の大切さを教授することで、生徒の資格取得の実績をアップさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響は否めなかったが、多くの取組は工夫をして、ほぼ予定通り実施することができた。特に昨年度は実施できなかったインターンシップはビジネス科のビジネス実習を含めて、全科全日程行うことができた。受け入れの事業所への感謝するとともに、今後とも実施していく意義を再度確認することができた。インターンシップ実施後のアンケートを見ても生徒側は「大変よかった」「よかった」と回答する生徒が 97%に達し、事業所側も来年度以降の実施の意向についての問いに対して、未定を除いた 95%が協力したいと回答している。 専門高校として「地域が誇れる学校」を掲げる本校は地域の専門人材の活用を積極的に行っている。ここ数年コロナ禍で少なからず影響があったが、本年度はほぼ予定通り実施することができた。4つの全ての科で社会人講師を招聘し、直接的に生徒たちの指導をお願いし、効果があったと考える。生徒たちに行った事業後の感想・アンケートを見てもこの取組が生徒にとって有意であったことが窺える。生徒たちのよい刺激になっていると断じることができる。一方、資格取得に関してはR 4年度は検定試験が予定通り実施されたが資格取得者は昨年引き続き伸び悩んだ。教職員や社会人講師による教授だけでなく、意欲的に資格取得にチャレンジするような具体的な仕掛けの必要性を感じる結果となった。特に難易度の高いものについてはその点が顕著で、本校の大きな課題であると認知する。 R 4年度は地域と連携した本校の取組が充実した年でもあった。各科が地域の施設や人とコミットし、評価を得た年であったと自負する。科によっては自治体とのコラボレーションによって考案した商

<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内就職内定 100% (R3…100% R2…100% R1…99%) ・卒業1年後の離職率 8% 以下 (R3.3 卒…8.8% R2.3 卒…7.9 % R1.3 卒…9.5%) ・資格取得 技能検定機械加工普通旋盤作業 3 級 10 名程度 (R3…4 名 R2…11 名 R1…14 名) 第 1 種電気工事士 15 名以上 (R3…6 名 R2…5 名 R1…18 名) 全商簿記実務検定 1 級 20 名以上 (R3…15 名 R2…16 名 R1…12 名) 家庭科技術検定 1 級 3 種目合格 10 名以上 (R3…2 名 R2…3 名 R1…3 名) ・推薦・一般入学者選抜における各科の募集定員の充足。 (以下は不足数) R4…電気 8 ビジネス 2 生活デザイン 3 R3…機械 5 電気 1 生活デザイン 3 R2…機械 5 電気 9 生活デザイン 4 R1…電気 2 ビジネス 3 生活デザイン 2 	<p>品を市井で販売し、多くの方に好評を得たものもあった。</p> <p><数値結果></p> <p>年内就職内定 100%</p> <p>卒業1年後の離職率 1.3%</p> <p>資格取得 技能検定機械加工普通旋盤作業 3 級 10 名 第 1 種電気工事士 9 名 全商簿記実務検定 1 級 14 名 家庭科技術検定 1 級 3 種目合格 0 名</p> <p>入学者選抜における各科の募集定員の充足 (不足数)。 R5…機械 2</p>
<p>3 実施事業</p>	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>●外部人材活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人講師活用事業 (各科及び芸術科) 工業・調理・音楽などで優れた技能を持つ地域の人材を社会人講師として学校に招き、その技術や知識を学んだ。 ・県立高校・大学教員の教員交流事業 (電気科) 鳥取大学工学部の教授等を講師に招き、大学で研究されている知見について学んだ。 <p>●キャリア塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会 (各学年) 外部講師を招き、進学・就職に関する講演を行った。 ・先輩に学ぶ 科ごとに社会で活躍する卒業生を招き、仕事に関する話やアドバイスを聞いた。 <p>【学校独自事業】</p> <p>●進路指導充実事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の推進 資格取得関連の書籍や資格を生かした職業に関する書籍を図書館に整備し、広く生徒・教職員の学習に資する環境を整えた。 <p>●職業観・勤労観の育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの推進 (機械科・電気科・生活デザイン科) 2 年生が 3 日間の職場体験を行い、進路目標をより明確なものにした。働くことのイメージを構築す 	

ることができた。

- ・インターンシップの推進（ビジネス実習）の推進（ビジネス科）

2年生は夏・冬の2回の計10日間、1年生は冬に3日間の職場体験を行い、進路目標をより明確なものにするとともに人間面での成長を図った。

- ・長期インターンシップの推進（電気科）→ 「長期インターンシップ」は、新型コロナウイルスの影響により中止

- ・地元企業を知る企業見学

全科の生徒が、進路選択の幅を広げることを主たる目的として地元企業を見学し、産業現場の具体的な状況を知る。R4年度は対象を全科に広げた。→ 「地元企業を知る企業見学」は、機械科で実施。他の科は、新型コロナウイルスの影響により中止。

- ・地元企業のものづくり展示

図書館にもものづくりに関する地元企業を紹介するスペースを作り、広く地域社会に目を向けさせ進路意識を啓発する予定だった。→ 「地元企業のものづくり展示」は、未実施

- ・地元企業を知る企業招聘事業

複数の地元企業を本校に招聘し、直接担当者に話を聞くことで地元企業の状況を知り、各企業が求める人材の把握に努め、進路選択に資する。

- ・県外企業研修

2年生の研修旅行で科ごとに企業を訪問し、地域産業と世界のつながりを理解した。

- ・安全教育

県労働基準協会から講師を招き、安全衛生管理について学んだ。

●地域との交流支援事業

- ・チャレンジショップ「くらそうや」、「くらそうサロン」

ビジネス科3年生が「商品の仕入れ・販売」「地域住民との交流」等を行う。地域との交流を深めるとともに対応力を養った。

●福祉活動支援事業

- ・電気の技術を生かした福祉活動

(1) 高齢者との交流

高齢者とコミュニケーションを行いながら、現在における福祉についての問題点や改善点を把握した。意欲の向上につなげた。

(2) 車いすの修繕

地域の方からの提供によって学科の枠を越えて車いすの修繕を行った。学校で学んだことを実践した。

- ・福祉施設体験活動の充実

高齢者施設、介護施設、保育園等の福祉施設との交流やレクリエーションをとおして正しい倫理観・道徳観などのものの見方考え方を知り、思いやりの精神や誠実で心豊かな人間性を育てた。

●スクールプロジェクト

- ・課題研究発表会の充実

各学科の発表会に大学教授や有識者を招聘し、指導助言を享受することで生徒の意識の向上と教員の指導力を高めた。

- ・鳥取県中部の魅力発信

近年実用が進んだドローンの知識や操作技術を身につけ、進路選択の幅を広げた。→ 「ドローン検定3級」3名受験し、3名とも合格。

●ものづくり支援事業

- ・マイコンカーの製作

全国大会を目指しながら、計画的に物事を進める力を身につけた。

- ・普通旋盤作業における技能指導

技能士の指導を受けながら、技能検定3級の合格を目指した。

・電気工事についての技能指導

電業協会中部支部の指導を受けながら、ものづくりコンテスト県大会・中国大会での好成績を目指す予定であった。

→ 「電気工事についての技能指導」新型コロナウイルスの影響により受けなかったが、ものづくりコンテスト県大会・中国大会には参加した。

4 総合所見（成果・評価）

本校のような専門高校にとって、地域とのつながりは必須であり、その意味でR4年度は標榜している「地域が誇れる」学校に近づいた年であった。R4年度は本校が実施している取組を広く地域の方にも認知してもらう目的で課題研究発表会を校外の会場で実施した。その際に教育関係者（中学校教員）や地域の方の来場いただいたことは上記の目的に加えて、発表や運営及び進行を行った生徒にとっても極めて意味あるものになったと捉えている。今後ともこのような生徒の成長を促すような機会を増やしていきたい。生徒が主体的に研究し、周囲の大人たちにその成果を見せることは次なるモチベーションを生む。R4年度において物足りなく感じた資格の取得数においても、相乗効果を期待する。地域の力を生徒に対する講演・講義としてそのまま活用するのはなく、他者に向けての発表の機会を付与することで期待される効果の増幅を図りたい。

成果の欄にも記述したが、資格取得では、上位資格の取得者が少なかった要因として受験者数が少なかったことがあげられる。実際に資格を取得できるかは別として、難しいことにチャレンジする気概を生徒たちにつけさせたい。自己の可能性が無限大に大きいことを成功体験を積むことで認知させ上位資格に対して多くの生徒がチャレンジするよう促したい。

また、地域にとって本校の取組として認知度が高い「くらそうや」についても単純に一つの科の取組という位置づけではなく、学校の取組としてブラッシュアップすることも視野に入れながら、中部で唯一の総合選択制の学校として、発展するために様々なことを企図していきたい。

※枚数任意